

関東部会 市民公開講座

「皆様の身近な薬剤師に！」を開催して

第118回日本薬理学会関東部会 会長 三澤美和

第118回日本薬理学会関東部会開催に合わせて2008年6月8日(日)に市民公開講座「皆様の身近な薬剤師に！」を部会会場の星薬科大学メインホールにて開催しました。星薬科大学学長で東京大学名誉教授の中嶋暉躬先生と元日本病院薬剤師会会長で信州大学名誉教授、星薬科大学特任客員教授の全田 浩先生のお二人をお招きして、講演をお願いしました。会場には一般市民の皆様のほか星薬科大学や他大学卒業生、日本薬理学会および応用薬理研究会両学会会員の先生方や大学院生、学部学生など約400名の方々が日曜の夕食時ではありましたが賑々しく参集されました。教室員学生が品川区内の掲示板およそ150カ所にポスターを貼ってまわりました。また各大学の卒業教育講座や各種団体に市民公開講座の宣伝をくり拡げました。ファルマシア、都薬誌等々の雑誌や朝日新聞にも広告掲載を依頼しました。こうした地道な活動が多くの方々の目にとまり、足を運んでいただいたものと思っています。

中嶋先生による講演「毒虫(ハチ、クモ、サソリなど)の研究」では、先生ご自身が発見された数多くの生理活性天然物のうち毒虫由来の神経毒について会場の市民の皆様に関わりやすく解説していただきました。獲物を捕るために使われる毒は、獲物がジタバタしないような麻痺作用を持った毒が多く、これがいわゆる神経毒です。この神経毒の作用点は、薬理的に言えば各種イオンチャネルやGTP結合タンパク質共役型受容体などですが、先生持ち前の飾らぬ気さくな語り口によって薬理学の「や」の字も知らない人たちにも薬理学の本質を理解していただくことができ、毒を利用することにより新しい薬の開発にもつながることを広く知っていただけたと思います。

全田先生には先生の揺るがざる信念である“薬ある



中嶋暉躬先生



全田 浩先生

ところ、薬剤師あり”という題で語っていただくことを求めました。ご快諾を得て講演タイトルは「薬あるところ、薬剤師あり—真の薬剤師像を求めて—」となりました。先生は長年日病薬会会長を務められ、薬学6年制や病棟薬剤師制などが導入された時代の変革期に重鎮として大役を果たされました。ご自身で達成された医療法や薬剤師法の改正、薬学教育の改革と6年制スタートなどについて会場内の方々にわかりやすく解説していただきました。薬剤師の使命と資質はいかに重いものであるか、薬剤師は今よりもっともっと薬について勉強し責任をもつべきであるということ先生独自の説得力のある話法で論じられました。全田先生は講演の中でいくつかの中国格言を引用されましたが、「書を以て御する者は馬の情を尽くさず」として、薬の作用を理解するには薬理学が重要であるが、教科書でいくら勉強してもだめで、患者さんの心を理解し、患者さんの苦しみや悩みを思い遣ってはじめてそうした知識が生きてくる、と力説されていたのが印象的でした。

市民公開講座終了後、講演を堪能された参加者にちょうど今どき現れ清々しい光を放ってくれる初夏の風物ゲンジボタルを1匹ずつお渡ししました。皆様嬉しそうに持ち帰られました。こうした試みも楽しい思い出となりました。

最後になりましたが、本市民公開講座を開催するにあたって、共催いただきました日本薬剤師研修センター、星薬科大学、星薬科大学同窓会、後援いただきました応用薬理研究会、日本薬学会、日本病院薬剤師会、日本女性薬剤師会、東京都薬剤師会、品川区に対してこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

(文責：千葉義彦)



会場の様子